

てん なが ち ひさ てんち よ なが か ひさ ゆえん もの そ みずか
天は長く地は久し。天地の能く長く且つ久しき所以の者は、其の自
しょう もっ ゆえ よ ちようせい ここ もっ せいじん そ み
ら生ぜざるを以て、故に能く長生す。是を以て聖人は、其の身を
あと しか み さき そ み そと しか み せん そ
後にして而も身は先んじ、其の身を外にして而も身は存す。其の
むし もっ ゆえ よ そ し な
無私なるを以て、故に能く其の私を成す。

【大体の意味内容】「天長地久」すなわち天は無限に長く広がり、地は久遠に豊穰である。天地
しぜん えいきゆう せんざい こんきよ てんち むしん なが ひろ ち くおん ほうじよう
自然が永久の存在である根拠は、天地ともに無心であって、自力だけで生きようなどとはしな
いから、それゆえにかえて長く生き続けるのである。したがって、天地の「道理」をわきま
えた聖人は、わが身を人の後におきながら、それでいて人々から推されてリーダーとして先立
つ。またわが身を人々の集まりの外側において真つ先に死滅する危険を取りながら、それでい
てかえて延命生存する。きつと私心私欲を持たないからこそ、天神地祇のおぼえめでたく、
じぶんじしん な
自分自身をつらぬき成すのである。

紅白歌合戦で、平井堅の「ノンフィクション」のバックで踊った義足のダンサー大前光市さんが、
とある番組でこう語っていました。

「俺は紅組でも白組でもない、『負け組』であつたい。」

不幸のどん底から這い上がって栄光をつかみたい、というのではなく、他人から見ても不幸のどん底
かもしれないところで、のたうち回り続けたい、ということなのです。けれどそこにこそ本当に生きる力
や炎があつて、人々を震撼させることを、彼はどこかで知ったのでしよう。右の老子の思想にもつな
がる生きざむだと思えます。

他人に勝って、大きな利益を得たり、ほめたたえられたり、そうやって自分の優越感を満足させよ
うとすればするほど、案外、くだらない、みじめな存在へと墮落していったりするものです。「私」を

守り手柄を示すようにするあまり他人を貶めたり、侮辱したり陥れたりがちで、そうすればするほどみんなから憎まれたり軽蔑されたりするからです。

徹底的に努力精進している人たちは、成功してもしくなくても、自分は決してひよりで生きていくのではなく、何か大いなるものによって「生かされている」と感じているのです。スポーツの世界では「ゾーンに入る」という言い方がされますが、何か特殊な領域に入って、自分に何かがとりついて、意識しないのに体が勝手に動き出すような感覚にとらわれます。読書したり文章を書いたのと同じでも、ぶと気がついたら夜が明けていたのと同じがあります。自分が書いたのは到底思えなようなものがいつか書いていて驚くこともありません。

老子の言う「無為自然」「無私」とか「無私」とかいったのは、単に何もせず念じているというのではなく、天地自然によって生かされ、しか態なのでしょ。その境地に達するより、「自分が為す」のではなく、天地自然によって生かされ、しかもそれが、本来の自分の力を最大限に発揮してしまう状態で、至っているのです。この感覚、とてもいいもので、謙虚に努力し、最高に「生かされている」快感を、味わってみてほしいです。